

《ベベル》外縁空域。高度三〇〇〇。

都市部が放つ燦然とした輝きを背に、カナタたちは《アスモデウス》たちから逃げ回っていた。逃走当初より、《アスモデウス》たちの数はずつと多い。逃走する最中に、増援が押し寄せていたのだろう。

夜闇に紛れるようにして、二人は高度を取りながら、《ベベル》から離れる。

もしいまが日中なら戦闘が市民に気づかれ、市街地は大パニックになっていたはずだ。「つたく。都市警と市民が犯罪に手を染めるって、《ベベル》はいつたいていどうなってるんだよ……っ!？」

突出してきた《アスモデウス》に、カナタが回し蹴りを放った。

「都市警にもまともな人はいるよ。でも、ふつうの都市警が対処できるレベルの相手じゃないだろうけどね」

同時にリバーが《アスモデウス》を斬りつけた。鈍色の硬皮越しにダメージを与え、《アスモデウス》は失速したが、すぐに傷が塞がっていく。

「そりゃそうだな。じゃあ《ベベル》の空士は？」

「生憎と《ベベル》の空戦魔導士のほとんどは、行政府の指示で、最前線の要塞浮遊都市で任務中だよ。代表小隊に選ばれた人もいるけど、その人たちは……」